



4:1 私は再び、日の下で行われる一切の虚げを見た。見よ、虚げられている者たちの涙を。しかし、彼らには慰める者がいない。彼らを虚げる者たちが権力をふるう。しかし、彼らには慰める者がいない。

4:2 いのちがあって、生きながらえている人よりは、すでに死んだ死人に、私は祝いを申し上げる。

4:3 また、この両者よりもっと良いのは、今までに存在しなかった者、日の下で行われる悪いわざを見なかった者だ。

4:4 私はまた、あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功を見た。それは人間同士のねたみにすぎない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

4:5 愚かな者は腕組みをし、自分の身を食いつぶす。

4:6 片手に安らかさを満たすことは、両手に労苦を満たして風を追うのにまさる。

4:7 私は再び、日の下で空しいことを見た。

4:8 ひとりぼっちで、仲間もなく、子も兄弟もいない人がいる。それでも彼の一切の労苦には終わりがなく、その目は富を求めて飽くことがない。そして「私はだれのために労苦し、楽しみもなく自分を犠牲にしているのか」とも言わない。これもまた空しく、辛い営みだ。

4:9 二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。

4:10 どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。

4:11 また、二人が一緒に寝ると温くなる。

一人ではどうして温くなるだろうか。

4:12 一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ燃りの糸は簡単には切れない。

4:13 貧しくても知恵のある若者は、忠告を受け入れなくなった年老いた愚かな王にまさる。

4:14 そのような若者は、牢獄から出て王になる。たとえ、その王国で貧しく生まれた者であっても。

4:15 私は見た。日の下を歩む生きている者がみな、王に代わって立つ、後継の若者の側につくのを。

4:16 その民すべてには終わりが無い。彼を先にして続く人々には。後に来るその者たちも、後継の者を喜ばない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

神がいなければ、この世の中では見える現実だけが全てで、良い悪いの価値はありません。ですからもしも自分がしいたげられていたら、そこには後の希望を約束するものもなく、またその涙にも意味がありません。そして実際にこの世の中には多くの涙があり、悩みがあるのですから、それらには意味もな希望もなく、私たちはただ虚しく苦しむしかないので。

ですから著者（伝道者）は、「死人に、祝いを申し上げ」、「存在しなかった者」に「もっと良い」と言うのです。

このように著者（伝道者）は、神なしとする者の側に立ってその前提で人生論を展開しますが、それはそのような前提がいかにもむなししいものであるかを、悟らせるためです。そしてまた神なしとは言いつけられない、この世の決してむなしくはない事象に目を留めるようにするのです。

ふたりがまさっていること。三つ燃りの糸のように一致協力することのすばらしさ。知恵のある

指導者のすばらしさ。これらは、やはりこの世には何らかの価値や法則があることを暗示しています。

神様がおられるゆえに、この世にはすばらしい価値があること、また価値ある生き方があることを確信しましょう。またこの伝道者のように、未信者の気持ちにも寄り添って、聖霊の知恵によって宣教しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

